〈 東北・新潟の活性化応援プログラム 〉
2020年 助成団体活動成果レポート

助成団体

南陽えくぼの里案内人

山形県南陽市

プロジェクト名

赤湯温泉で滞在観光「住んで良し訪れて良し」会

■地域の課題

南陽えくぼの里案内人」ボランティアガイドの会は、設立20周年を迎え、このたび東北電力様のご支援を賜り5本柱で15項目の事業を展開しました。赤湯温泉を軸にした観光地南陽市は山形県南部の置賜盆地にあり、県の形が人の横顔で、市はえくぼの場所にあるので「えくぼの里」、市内に伊達・上杉の保養地であった赤湯温泉や日本三熊野の一つとして信仰を集める熊野大社、また春は日本さくら百選の赤湯温泉烏帽子山千本桜公園、竜の伝説が伝わる白竜湖、国指定遺跡稲荷森前方後円墳など日本農村百景の地として先人の力で賑わってきました。支援のチャンスを機に、ガイドの会20周年にこれ迄の感謝の心で、この際未来に向けて地域民の協働で滞在して交流をはかる新時代の保養温泉地づくりをスローガンに事業展開できました。時にコロナ禍の環境下でのSDGs対応に使命感を意識しながら諦めずに精一杯推進に努力しました。以下にご報告をし、深く感謝の意を表します。

1. 令和3年は市政55周年の間近で未来への市民のまちづくりへの関心の高揚が見られました。
   南陽市は昭和42年市政施行し山形県下で一番新しい市。来年令和4年に市長選挙予定され、市の行政、議会、住民コミュニティー活動（公民館や地区隣組）の社会システム機能のあり方の話題が多い状況。
2. 平成25･26年連続の豪雨災害から、やっと6箇所の橋新設と堤防整備が進捗し最上川まで繋がりました。市民の母なる河川「吉野川」、工事への8年間市民協力と県市行政推進に感謝し新活用で生活充実が話題化。
3. 県道「赤湯温泉大通り」の拡張工事の終点JR赤湯駅までの計画が明確化され地域検討が始まりました。道と川と交わりを「一流一路」、住んで訪れて保養する温泉街と駅の核、これ迄20年と後数年で終焉!
4. コロナ禍対応やSDGs未来づくりへの使命感高揚をどう滞在型温泉観光地づくりへ反映できるか。地域住民と来訪者の視点で未来社会に役立つ「地域資源活かした魅力ある滞在温泉保養地」世界へ旗揚。
5. 新しい観光推進に中長期計画構想と環境整備行動が立ち遅れ気味状況。出来るところから始めます。「観光で行こう、駅前が寂しい、街中にトイレ無い」住民や来訪者の意見に早期対応の計画と協働着手!

■当団体の紹介

赤湯温泉郷で観光案内を行うボランティア等を対象としたスキルアップ講座や視察、観光マップ制作等を実施し、滞在型観光を楽しんでもらうための受入環境を整備します。

プロジェクトの概要

■背景・目的は？

●どのようにして（5本柱15事業活動推進の留意点）

着眼対局・着手少局・着々寸進・洋々万里

- A：活動の広報は南陽市「市報」と事業協働する山形新聞社を主に広くアピールし相乗効果を目指します。
- B：行政（山形県･南陽市）と民間の連携での成果を意識し刺激し合います。市民として南陽市行政へ期待と不明感弱小さを訴え、実態を探り県と市の行政間歩み寄り強化、行政と住民総合理解協働を充実させます。
- C：現存の地区組織と協働を仕掛けます。地域構成要員として使命感と出来る自信を意識強化し地域づくりします。区長や部落組織、隣組、商店会、まちづくり協議会、協同組合、学校、社会教育や福祉機関、青年や婦人組織、産業界の組合等、多数ボランティア団体、皆で声出し互いの内外のシンクタンク構築目指します。
- D：南陽市観光協会の機能強化に寄与します。会員の我々ボランティア団体が刺激し行動支援し汗をかきます。コロナ禍の先、進む人口減等の社会傾向、継続する国際交流等未来を予測し仮定し今行動できることから目標にむけての必要行動を示します。一人市民が協会の各業種が待つ行動欲と夢、来訪者の感想を種子にしたwinwinの次の喜びや繁栄を協働して誘導すべき組織としての原点意識でチャレンジする機運を作ります。
- E：‘点’としての観光資源を再認識し‘線’で繋いで結んで多数の‘面’に広げ、面と面を絡ませ“球形”と一人の市民や来訪者の言動感情を大切に1つ1つを地球の緯度経度のように引き出しにマッピング共有し、必要な時に協働の舞台で道具化セットし、行動が世界中から注目されるよう質の向上と新しい交流へと成長させます。
- F：「住んで良し訪れて良しの滞在保養の温泉地づくり」を意識し、住民と来訪者の交流づくりイベントを見直し新しく仕掛けて滞在地魅力アップにへ繋げるように取り組みます。
- G：活動への参加料は無料を目指します。事前事後のアンケートを活かします。市報や山形新聞記事で募集報告の掲載を願います。各種情報の受発信の「スタジオ」づくりにつなげるため参加しやすく感想を述べてもらえるようにします。
- H：コロナ禍の意識強くし、市や公民館の指導守りマスク着用、三密禁止、消毒と換気と洗浄を徹底します。
- I：インターネットやSNS活用し、諦めないで声がけ等をし、実行優先とします。縮小しても実行します。
- J：他団体機関に積極的に関わり、事業予算の合同や合算など、臨機応変に協働します。協働規模を可能な限り大きくするよう宣伝や心がけし、活動成果を細かく認識し共有し、ステップアップを狙います。
- K：実施経過と結果は、温故知新、「これまで」「今･現状」に学び、断捨離等整理整頓し、分析してよく理解し「これから」に役立たせるよう、具体的でわかりやすいようにまとめていきます。

●だれが（協働のパートナー）

住民が、行政が、社会教育施設や団体が、商店が、飲食店が、ワイナリーが、旅館が、温泉施設が、生産加工農家が、プラン参加市民県民有志が、国内外からの来訪者が、

●どうなるように（活動意識の変化の狙い）

観光（素材化したオリジナル地域資源を地元民来訪者皆で考え適時種々企画し楽しみあう）体験滞在をし、SDGs活動の意識の上に出会い交流して「住んで良し訪れて良しの滞在する赤湯温泉保養地づくり」を実践します。

社会や自己に潜む上手く絡み合っていない隙間の存在を発見し、隣人と互いに語り、それを解消するために、生活（滞在）の中で、喜怒哀楽を共に感じながら、皆で担い合いながら、1つ1つできるとことからの協働作業で、より充実した社会と自己を目指します。

■具体的な活動は？

5つの事業の柱･15の事業を展開

●事業1 公開研修会「ふるさと南陽に学ぶ観光塾」を3回主催

1. 第1回観光塾　3月10日　120分　赤湯公民館　参加無料　40人
   市報と山形新聞で広報、初回の山形の出前講座に挑戦　街づくり討論会で質疑意見交換
   テーマ「県南豪雨からの復興、地域人との協働による地域創造へ」～県道赤湯温泉大通と吉野川河川改修工事進捗と今後の活用法～
   → 2kmの大通りと100kmの吉野川の整備の最終的完成までの計画と工事予定を学び、「一流一路」を表示と決定適時研修し、事業の1-3 ,2-5, 2-6, 5-1, 5-3 を企画実行しました。（今後の観光塾を市内小学中学高校生対象の出前講座として行政と協働で実行したい）
2. 第2回観光塾　9月26日　4時間
   市内宮内地区のまち歩き研修会(ガイドブック作成に向けた調査を兼ねて)、山形新聞取材と後日掲載、赤湯駅集合出発とし駅の機能拡大とフラワー長井線利用拡大に向け仕掛けます。地域有識者より力強く指導いただき、複数の指導者存在確認しました。
   → 事業2-1、2-2 に続けてvol.3以降のガイドブック作成を、市内多種のテーマや隣接市町村ガイドと広域の協働ガイド作成と街あるきコースに活かし、協働のガイドブックづくりへ展開していきます。
3. 第3回観光塾　10月24日　4時間
   出来上がった5-1事業の「花見橋ポケットパーク」を発着点に活用しました。研修箇所を10ヶ所設定してパネルを作成し、説明人に県市の担当職員や地域協議会役員有識者が協働であたりました。　山形新聞と有線テレビNCV取材。「第1回新しい吉野川を歩こう会」と銘打ち、秋季吉野川3kmを堤防の歩行と6つの新設の橋の特徴由来等周遊研修コース設定、40人参加事業5-2,5-3 実行に関連させました。市民にとり初めての河川の勉強会として旗揚げができました。また県と市の事務所に10数回通い山形新聞社と打ち合わせで、直接に人に接する実績の案内人会の方が、されどの力を行政への感謝と意見を絡ませて、地元地区公民館を活用しながら実施しました。
   →同時に案内拠点地20を設定し各点をつなぐ様に街歩きコースに活かせてガイドの出番の増加を狙いました。

●事業2 必要な各種マップ･ガイドブックの作成に挑戦

1. 観光ガイドのためのガイドブック（vol.1 赤湯周辺編、vol.2 宮内周辺編）編集、案内人同士の手作り、34頁カラー、各40部作成（宮内編は進行中）
2. 日本さくら百選公園の「烏帽子山千本桜マップ」500部改編、観光協会と千本桜保存会と協働、多言語、温泉街マップ含めた（案内人のこの事業から5万円を案内のソフト提供の立場で保存会や観光協会と協働合算してわかりやすい地図づくりができました）
3. 郷土偉人「結城豊太郎先教本」編集増刷、中学生授業教本に提供、学びと郷土愛育成狙う、市社会教育と市民有志で協働事業　観光案内の教本を兼ねる（第15代日銀総裁や大蔵大臣で日本の経済界に尽力した赤湯の偉人結城豊太郎先生の記念館への市内外の方々の案内や市民郷土愛育成に向け、ロータリークラブと協働で市内の全中学生に教本として贈呈配布し、観光ガイドに活かして他の偉人のガイドブック編集に向け一歩前進を図りました。総費用約40万円の内3万円で協働）
4. 念願の今後の赤湯温泉観光案内資料の基礎となる「現状の地域地図データ」を山形県からデータ提供を願い多目的に自由に使えるようCADやJPEGの形態で作成CD保存できました。今後、全ての基礎となる地図データとしてガイド他何にでも活かせる地図兼住宅データとして有効利用します。
5. 花見橋ポケットパーク　5月竣工で「赤湯温泉ふれあい街歩きマップvol.1」作成、JR　赤湯駅と赤湯温泉街を軸に市内20箇所を改めて起点付けし、季節魅力や時間余裕に合わせ何時でも気軽に便利安全に周遊案内できるよう、観光情報、WC、救急対応情報等を精査して記載します。まずはその土台を提示できました。（対象利用施設や道路等の土地状況が刻々と変わる中、今の地図を常に修正･変更して多目的に作成。街あるきに必要な地図を立ち上げました）
6. 河川工事進捗に呼応し「市民の母なる川“吉野川”周辺散策マップvol.1」作成、新装4橋の堤防1周3km　コース、四季の自然風景と周囲施設情報や歴史文化情報セットで物語風散策誘導、日常散策する住民のため、また訪問客滞在のために活かします。早速第3回観光塾で活用しました。10月30日実施の「最上川さくら回廊桜植樹イベント」にて東北電力支援での活動を地図活用してアピールしました。（今回の赤湯3km 地図を皮切りに「一流一路」テーマに全吉野川に地図増やします）

●事業3 「JR 赤湯駅の賑わいづくり活性化」で地区ネットワークづくりへ広がるよう活動

1. JR赤湯駅周辺の早朝清掃。案内人と行政、JR、住民、旅館、タクシー、商店、ワイナリーJA他総勢30人。山形新幹線停車駅とフラワー長井線発着駅について、置賜地区3市5町広域の結節点として綺麗で便利で安全で常に情報受発信できる駅周辺として魅力増進を狙いました。
   駅を観光拠点の1つとして充実させようと、南陽市観光課や南陽市観光協会にJR 赤湯駅内に観光地歓迎の拠点として協会事務所を戻すよう働きかけましたが、残念ながらその方向にはいきませんでした。諦めずに市民の市内や広域における行動や来訪者の歓送迎、賑わいづくりにあたり、結節点としての赤湯駅周辺の充実にこだわります。また、駅周辺開発に関わる中でコロナ禍の先の重要なことを清掃事業や歓送迎事業を展開する中で示していきたいです。
2. 四季の「赤湯駅長オススメの小さな旅（イベントコース）」企画実施。続けてコロナ禍の先で案内人や地元有志が駅から始まる街歩きを開催し続けるよう、コース内容を充実させます。駅舎イベントや街歩きを通じて小中高生や高齢者と共に観光来訪者と相まって桜鑑賞や温泉体験、商店街ショッピングなど、多くのプランを準備。本年はコロナ禍でほとんど集客ならず実施できませんでした。来年以降本事業での地図や観光地整備に駅の有効利用を強調していき成果を狙います。

●事業4 花まつり等イベント「赤湯温泉マルシェ」で案内人の順番予定等企画と準備体制作る
案内愛生の充実図るよう努力

1. 四季イベント（冬2月雪灯り祭り、春4月さくら祭り、夏6月バラ祭り、秋10月きく祭り）の観光案内担当割体制整備しましたが、コロナ禍で祭自体が中止になるなど、出番がほとんどなしでした。しかし、お客様視点での案内業務の充実と誘客対策等会議しました。
   今後は、日常生活イベントとしてマルシェの市開催に向けこれまでの花祭りだけでなく小規模でも日常のイベントに注目してそこから集客を図りサービス展開するようセットしていきます。
2. 観光案内やマルシェ（市）開催時のサービス向上魅力アップに向け協議し、ガイドブックやマップの充実と共に通年で案内人として明確に案内行動を示しよりスムースに業務ができるための意見で、市内山形県立南陽高校生（美術部）と協働で、生徒の観光地印象をデザインとして立ち上げが実現し、ガイドの制服を立ち上げ製作できました。
   周囲から好評で案内人の意気込みも高まり来年以降のサービス向上に若い世代との連携を強めていき、生徒よりのガイド案内も再現していきたいです。

●事業5 赤湯駅と赤湯温泉街を結ぶ県道工事（一路）と最上川の支流の吉野川河川整備（一流）が進み、
コロナ禍の先に魅力を継続する滞在保養地としての新しい案内拠点のパークを造成

1. 「赤湯温泉花見橋ポケットパーク」を一流一路の交わる花見橋に。付近に「歓迎赤湯温泉」表示を新設しました。山形県、南陽市、市民各組織と案内人の協働で構想し、特に観光案内看板やベンチ設置等に意見しました。総工事費用は約350万円の内、案内人からは観光案内看板作成設置と維持管理目的に10万円を吉野川さくらパーク共に協働主体の南陽臨雲ロータリークラブに協賛参加しました。
2. 山形県内35市町村を桜で繋げる山形新聞主催の「最上川さくら回廊植栽活動」植樹式50名今年は南陽市が会場。10月30日、県知事挨拶後12本植栽。ボランティア団体として参加。山形新聞と協働できました。観光ボランティア団体として植樹参加に選考されました。長井と白鷹の近隣ガイドの参加で広域での参加とした 県と市に植栽地周辺の公園化構想を示しました。
3. 「(仮称)吉野川さくらパーク」新設着手。県と市の許認可で案内人と市民有志、臨雲ロータリークラブと協働事業で、10月30日、さくら植栽地の公園化(ベンチ看板等設置)に着手しました。5月にできた花見橋ポケットパークと関連させ吉野川周辺整備を進めました。

●主なテレビ新聞等メディアの実績

1. 東北電力山形支店長様による助成決定と授与式、山形新聞取材し紙面で全県に広報
2. 「ふるさと南陽に学ぶ観光塾」の南陽市報掲載での全市民へ開催告知と参加者募集2回
3. 第2回「ふるさと南陽に学ぶ観光塾」の山形新聞取材、NCV（地区有線放送）TV 取材報道
4. 改修なった吉野川の堤防道路、延長測量活動の山形新聞取材報道（3回観光塾準備調査）
5. 第3回「ふるさと南陽に学ぶ観光塾」の山形新聞取材と掲載
6. 山形新聞主催「最上川さくら回廊」 植栽事業へ参加（知事同行）山形新聞取材

●反響

1. 市民や県民から、新聞や市報見て事業参加とテーマへの質問や提案を受け、イベントに活かした南陽市役所で市報原稿や建設課では各種許認可等打合せ、山形県置賜総合支庁の道路計画課と河川砂防課では企画説明や許認可申請等、数回の説明協議を重ね庁内で東北電力支援事業として趣旨を理解いただき協働の形ができました。
2. 花見橋ポケットパークや吉野川さくらパーク整備、また郷土の偉人結城豊太郎先生教本の制作と市内全中学生約1,000人への教材としての贈呈行動は、南陽臨雲ロータリークラブ創立20周年記念事業とハードソフトでの協働事業展開であり、世界に広がる国際ロータリークラブネットワークや山形全県2,800地区（全山形）や東北6県エリアのロータリアンへの広報となりました。また学校3 校のPTA や教職員へ、市内地区公民館等社会教育施設へ勧誘等で大きく広報し賛同を得ました。

ユニフォーム

菊まつり

最上川さくら回廊植樹式

赤湯駅清掃

■活動の成果は？

1. 「協働事業体制の体感」様々な団体組織と市民が協働できいつでも声がけして実践できました。
   協働して実施できた事業:1-1, 1-2, 1-3, 2-2, 2-3, 2-4, 3-1, 4-2, 5-1, 5-2 ,5-3
   協働した団体個人:山形県、南陽市、赤湯温泉まちづくり協議会、古堤公園整備委員会、若葉町地区、南陽市観光協会、南陽市観光推進会議、南陽臨雲RC、山形県立南陽高校美術部、南陽市立図書館、宮内歴史の会、市内印刷会社、烏帽子山さくら保存会、結城豊太郎記念館松田組、（株）イトウ、デジコンキューブ、（株）ざおう、書家安孫子実氏、光南設計、山形新聞社、有線放送NCV、長井市･白鷹町ボランティアガイド、市民有志、他
2. 「観光を軸にした地域開発の理解」 南陽市は観光が導くネットワークを活かして効果を作る方向
3. 「地域資源の再認識と有意義な“点→線→面”での活用」 繋げて大きな魅力が即現れる資源認識
4. 「“出前講座”という取り組み易い研修スタイル」 聴衆に合わせて誰でも出張して研修提案討論可能
5. 「地元幼小中高生アイデア提供での未来づくりの成果」社会で学校で家庭での教育と連動の積み上げ
6. 「新聞社推進事業への協働でウィンウィンの相乗効果づくり」 一団体と徹底して中期的に協働効果
7. 「住民の所属する各組織のアイデンティティー見直し（課題と優位）で相互共有化で郷土愛へ繋ぐ」
8. 「“一流一路”という新しい地域特徴地勢認識の発生、行政･民間･政治が協働で長期展望しての成果」

東北電力様の支援事業であることをその都度説明表示し、住民は東北電力の地域応援の会社姿勢と日常の電気生活での恩恵心を持って、コロナ禍、SDGs　実行で感じている必要な新しい風、考え方での行動心、何かしら挑戦に参加しようとの思いが、プロジェクト参加に大きな支え協働意識となり、事業を他人と関わりながら自信を持って実行でき、大きな広がりになりました。

1. 助成金を活用し他組織団体との協働体制でこれ迄より規模を拡大しての事業を行えました。
2. 参加募集や広報宣伝において、東北電力様の助成事業の主旨を添えて、より広くより多くの人に情報を届けられました 。（より･そう･ちから＝東北電力地位支援事業をPRできたと思われます）
3. これまで始められずにいたガイドブックや地図制作に着手し供給できました。これまでの広い意味での関わりや因果関係、しがらみを一旦整理･断捨離し、柔軟な地域づくりへの進展の契機は作れました。このスタートから継続して、主役を入れ替えながらプロジェクトを成長させることが大事。常に様々な隙間を互いに問題化し認識し「希望」を共有し協働する舞台作れたのは大きな成果です。

赤湯温泉花見橋ポケットパーク

第1回観光塾

第2回観光塾

第3回観光塾

団 体 か ら の コ メ ン ト

●今後の展開

2021電力プランで動き出した「5本の事業柱」の継続にチャレンジする（ノンストップ!）

1. 「ふるさと南陽に学ぶ観光塾」の継続開催する市民への観光推進意識の誘導啓蒙機会づくり。
2. 「時勢テーマにあったマップ･ガイドブック」の充実と更新　赤湯温泉地から南陽市全域へ、更に広域範囲に拡大した世界視野、外国人目線、滞在する視点での必要な多面情報を盛り込みます。
3. 新しいJR 赤湯駅の機能充実…JR 東日本（株）と連携協働を図り特徴を活かした「世界から注目されるユニークな駅」構想を提案し自ら利用者の案内を行動するスタジオ機能と案内の発着場。
4. 「人や物産が集まり交流する市場＝マルシェの日常開催地」…観光イベントや社会の行動を医療観光、産業観光、福祉観光、スポーツ交流、コンベンション交流、体験観光等を商品化情報受発信。
5. 「便利なポケットパークを辿りながら便利に安全に滞在できる温泉地」…電力プランでの2箇所の新パーク造成契機に滞在観光生活での案内や休憩やトイレやSDGs 行動に照らして再編します。

●現状の課題

1. 活動資金が足りません。（安価な年会費と少額の補助金しかありません、これ迄の積立金なし、行政や観光関連組織からの補助金が少ない）
2. 活動の事務局機能が弱い。（常時集まり使用できる場所がない、共に行動できる事務局員が少ない、コピー機やPCと通信機能整備がない、何とか観光協会に実費でお願いしています）
3. 会員の拡大が急務です。（手頃な会費徴収と行動の人手の拡大がないと持ちません）
4. 会員の活動参加目的が様々です。（活動と通した目的が自己と仲間の生き甲斐づくりが主、観光を軸にした地域づくりへの行動目的意識が薄い）
5. 団体の社会的認知立場が弱い。（市の観光推進への行政を軸とした体制<資金や行動計画>が軟弱ガイド団体の存在の立場作りが進みずらく何かしらの対策、チャレンジが急務）

●今後の活動方針･目標

1. 会として5つにまとめた課題克服に向け検討を重ねできることから実現していきます。
   ･資金確保 ･事務局設置 ･会員同士の募集 ･活動方針等話し合い ･社会貢献に繋がる行動
2. 会員同士や他団体機関と情報を密にし今後の展開に向け会として具体的活動を継続します。
3. 2021電力プランを契機に他助成金や市県行政や観光関連組織から資金や協働の舞台を確保します。
4. 我々のボランティアガイドの会はじめ全ての団体において、社会情勢が目まぐるしく変化し、ましてや地球存続に及ぶ人間社会の課題や予測される大災害への対応準備など、これまでの当たり前の概念や垣根を再構築していく中で、団体そのものも拡大縮小、消滅、再生など変化ありで、団体の器だけにあまり拘らず、時代に合わせての様々な単位での新しい協働が当たり前の姿。団体の年度の事業計画や組織や予算の変更をしながらもアイデンティティー（自分たちの認識、存在価値目的など）を意識しその中軸の思いを中期的存在で実現に努力していくよう、臨機応変な団体運営が必須です。

より、そう、ちから。
東北電力
© Tohoku-Electric Power Co.,Inc. All Rights Reserved.